

## メディケアフーズ展にタンポポが出展しました



2月20日~22日に開催されたメディケアフーズ展にタンポポが初めて出展しました。「高齢者の食・介護食の未来を拓く」をテーマ/東京ビッグサイト)来場者数29,000名を超える国内最大級のイベントです。健康志向や高齢化を見据えた市場調査や商談を目的に海外の方も沢山参加され、中国・韓国・タイ・インドの方たちも熱心に説明を聞かれました。



病院や介護施設の方にえん下食を試食してもらい、説明する管理栄養士。「食材ごとの味がしっかりしていて美味しい」と大変好評をいただきました。

## クロワッサン(1/25)に掲載されました



「調理定年と親の食事」のページで在宅向けお弁当にタンポポの「やわらか食弁当」が紹介されました。

スマホでかんたん注文  
オンラインショップはこちらから



タンポポの特徴や食事の形態をパネルや盛り付けで展示しました。

## Instagram 開設しました

メディケアフーズ展の様やタンポポのやわらか食弁当のことなど、タンポポのInstagramで情報発信しています。皆さまもよろしければ一度ご覧ください。たくさんフォローしていただくと嬉しいです。



## 介護福祉士合格おめでとう

リフシアで活躍する外国人介護士にインタビュー  
団塊の世代が75歳以上になる2025年におよそ35万人の介護職が足りなくなると予測される中、外国人介護士が活躍しています。リフシアには現在17名の技能実習生・特定技能の外国人が在籍しています。この春2名の方が介護福祉士に合格しました。

●介護の仕事にチャレンジしたきっかけは？  
インドネシアの保健専門学校で助産師を専攻し医療センターで実習も受けましたので、日本の介護に興味を持ちました。日本のアニメや文化にも憧れていました。



●どのような介護職になりたいですか？  
どんな時でもお客様を一番に考えてケアできる介護のプロになりたいです。いつでも焦らず笑顔で対応できるように。  
●これからの夢はありますか？  
いっぱいあります。国は今は大変なので、直ぐなくても家族みんなが暮らしたいです。妹たちは日本に来るため一生懸命日本語を勉強しています。  
●介護福祉士を目指している人にアドバイスをお願いします。  
板倉所長や職場のみんなが応援してくれるから、家に帰っても楽しく勉強が続けられました。週々3日寝る前にテキストやYouTubeで勉強を続け、試験前に模擬試験を受けました。目的をしっかり持てばやらないといけないことが見えてきますよ。

セルリ・メマ・アンドリアニさんはリフシア香川のグループホームで働くインドネシア人です。リフシアで本格的に外国人採用を始めた2018年に現地面接で採用した一期生で、今ではグループホームになくはならない存在です。



↑応援してくれた先輩水野さん(左)とセルリさん(右)。丁寧なことは違いますがやさしい笑顔はみんなのお手本です。  
↑社内制度を利用して介護福祉士をとったピョーさん(左)と、合格を喜ぶ板倉所長(右)。

●介護の仕事にチャレンジしたきっかけは？  
習も受けましたので、日本の介護に興味を持ちました。日本のアニメや文化にも憧れていました。  
●どのような介護職になりたいですか？  
介護福祉士を働いたのもっと知識や経験を積み介護を教えられたいような存在になりたいです。  
●これからの夢はありますか？  
インドネシアの家族を応援しながら、日本で安定した生活が送れるようにこれからも介護のプロ意識をもって働きたいです。  
●介護福祉士を目指している人にアドバイスをお願いします。  
セルリさんとピョーさんはこれから在留資格介護のビザをとりリフシアの正社員になる予定です。介護福祉士を目指す方をリフシアはこれからも応援します。

している人にアドバイスをお願いします。仕事以外の空き時間などを有効に使い、無理なく自分のペースで勉強してください。問題集やアプリを使ってできるだけ問題を沢山解く練習をしましょう。頑張れば必ず私のように合格できますよ。

## らいふ通信「ぷちらいふ」春号 Vol.73

2024年4月15日(季刊発行)  
編集/ぷちらいふ編集室  
〒253-0071  
神奈川県茅ヶ崎市萩園 2822-1  
TEL:0467-55-5102  
FAX:0467-55-5103  
発行/株式会社リフシア

◆春号では、リフシアで初めて介護福祉士に合格した外国人介護士と大規模災害に備える防災BCP委員会の活動を紹介します。新型コロナのような感染症の大流行や自然災害に備えるBCPの作成や訓練は介護保険で義務化されましたので、これからもぷちらいふで取り上げていきます。  
◆次号でぷちらいふは20年目を迎えます。これを機に編集長を三島から新メンバー中村にバトンタッチ致します。これまでぷちらいふをお読みいただき、誠に有難うございました。これからもどうぞ宜しくお願いします。  
◆リフシア夏号は7月15日に発行する予定です。皆さまからのご意見やご感想をお待ちしています。

### 編集 後記

◆春号では、リフシアで初めて介護福祉士に合格した外国人介護士と大規模災害に備える防災BCP委員会の活動を紹介します。新型コロナのような感染症の大流行や自然災害に備えるBCPの作成や訓練は介護保険で義務化されましたので、これからもぷちらいふで取り上げていきます。

# いつ起こるか分からない災害に備える リフシア防災BCP委員会

2024年1月1日に発生した能登半島地震により犠牲になられた方に心より哀悼の意を示しますとともに被災された方々にお見舞いを申し上げます。介護施設では2024年4月から業務継続計画(以下「BCP」という)の策定が義務化されました。

これは、ご利用される方の生命と健康を守り、災害や緊急事態が発生した際でもサービスの継続を確保する為に、BCPを策定する事で、緊急事態においても事業を継続または早期再開することを目的としています。

リフシアではいつ起こるか分からない災害に備え2014年から防災BCP委員会を発足し活動を行っています。



装置を使った通報訓練の様子



↑BCP委員会の研修にてマニュアルの見直しを行いました



→定期的に発電機始動チェックをしています



お客様と一緒に消火器訓練(リフシア香川)



藤沢消防署のご協力のもとに救命救急講習を行いました(リフシア善行)



本番さながらの避難訓練(リフシア善行)

## 委員会活動の必要性

2019年10月、台風19号の影響で城山ダムが緊急放流。この時、リフシア柳島のお客様と職員が避難をする事態となりました。当日出勤していたリフシア柳島の職員に加え、他事業所の職員も積極的に協力し、大きな混乱もなく無事に避難することが出来ました。

その中で浮き彫りになった課題もあり、その後の委員会活動を通して課題の整理と計画の見直しも行いました。

## 委員会の取組み

現在リフシアでは毎年、防災訓練2回とBCP訓練2回の合計4回の訓練を行っています。更に4回の研修・勉強会を含め年間8回の委員会活動を計画的に実施しています。

災害が起きても止める事の出来ない介護サービスでは、職員の参集や優先する業務の見極めを含め、全職員で協力ができる体制づくりを構築する必要があります。その体制づくりは事業所長一人で行えるものではなく、防災BCP委員一人ひとりの力が非常に大切となります。現場をよく知る職員が委員まさにチームで体制を作る大切な役割を担っています。

をテーマにして各事業所にて実施。消火器訓練では使用方法や設置場所の再確認をし、通報訓練では自動火災通報装置を使用して実際に通報を行い、利用方法などの再確認をしました。



■茅ヶ崎市との協定  
さらに茅ヶ崎市の事業所においては市と災害時の協定を締結し、避難所で避難生活を送れない要介護者の方を受け入れる事としています。いつ起こるか分からない災害に対し、地域密着型の介護事業所として常に体制を整えています。

## 感染症BCP

このBCPは自然災害だけではなく感染症に対しても迅速な対応・体制づくりが必要となります。第5類に移行したとはいえ、いまだに脅威である新型コロナウイルスやその他の感染症のまん延を阻止し、事業の早期回復の為に保健衛生委員と共同してBCPに取り組みます。

防災BCP委員長 中村和人

※BCPとは: Business Continuity Planの略称で、業務継続計画などと訳されます。大地震等の自然災害、感染症のまん延、テロ等の事件、重大事故、サプライチェーン(供給網)の途絶、突発的な経営環境の変化など不測の事態が発生しても、重要な事業を中断させない、または中断しても可能な限り短い期間で復旧させるための方針、体制、手順等を示した計画のこと

## 消防署などの関係機関と連携で有事に備えた対策を 防災BCP委員平田謙治さんインタビュー

(リフシア善行:入社9年4ヶ月:介護職)



■防災BCP委員になって何年たちますか?  
BCP委員となって7年担当しています。

■平田さんは防災意識が特に高いと感じますが  
親戚が消防関係の仕事をしていて、救命救急講習などボランティアで手伝いをする事が多くあり、他の方よりは防災に関わる事が多い方だと思います。

■委員として意識している事は?  
有事の際、ひとつの事業所でする事は少ないと思うので、常に消防署など関係機関との関係性を大切にすることを意識しています。

■リフシア善行は災害に強いと思いますか?  
一生懸命やっていますが正直いって、なかなか浸透しない部分があります。防災の話では永遠のテーマかと思いますが、当事者意識の欠如がなかなか払拭できない部分があります。何度も何度も伝え続けて意識を高めてもらうよう働きかける努力をしています。

■今後について  
所長や自分(委員)がいない時に災害が起きて、事業が継続できるようにしている事が理想ですね。その為には全員がBCPを理解する必要があります。いざ災害が起こった時に機能するように全職員で協力体制が構築できるようにしていきます。